

# BRIDGEPLUS

## 関東労災病院医療連携情報（令和7年9月号）

### INFORMATION

診療科紹介（消化器内科）

診療科紹介（泌尿器科）

診療科紹介（呼吸器内科）

クラウドファンディング

### 診療科紹介（消化器内科）

地域の先生方とともに取り組む消化器内科医療の充実を目指して

4月から関東労災病院消化器内科に赴任致しました。私はこれまで、消化器内科の中でも特に内視鏡を用いた低侵襲治療を専門としており、早期癌および前癌病変に対するESD（Endoscopic submucosal dissection：内視鏡的粘膜下層剥離術）やEMR（Endoscopic mucosal resection：内視鏡的粘膜切除術）を、食道・胃・十二指腸・大腸と幅広い領域で行ってまいりました。大学病院では治療困難症例や合併症を伴う症例の治療および指導も数多く経験し内視鏡学会のハンズオンの指導医や、日中消化器内視鏡臨床診断治療・病理合同研修プロジェクト内視鏡のハンズオン指導医などを行っております。

関東労災病院に赴任してから数カ月ですが、手術室での全身麻酔下のESDや13cm程度に及ぶ巨大な胃病変に対しても積極的に治療を行い、偶発症なく安全に治療を完遂しております。当施設では昨年度は年間100例を超すESD症例を施行しており、大きな偶発症なく患者様に満足していただく治療を施行しております。しかし、この症例の大多数は近隣の先生方による内視鏡での検査によって発見できている症例です。ここ最近はごく小さな病変から、外科的加療と内視鏡的治療の間で判断が難しい病変についても近隣の先生方から相談を頂いております。実際先生方が内視鏡を施行されて内視鏡治療の可能が困難に見える病変に関しても当院での精査にてESDでの治療が可能と判断出来る病変が多く存在致します。またそのような症例に関して実際にESDでの加療を行っております。少し悩まれる症例などに関しても気軽にご連絡いただければ対応させていただきます。

また、赴任前は食道アカラシアに対するPOEM（経口内視鏡的筋層切開術）にも積極的に取り組んでおりました。関東労災病院では現時点で未導入ですが、今後体制が整えば対象疾患の診断・治療の幅がさらに広がると考えております。

消化器内科 部長 小野 真史  
Ono Masashi

中央が小野医師



(次ページへ続く☞)

## 診療科紹介（消化器内科）

内視鏡治療の他にも、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患（IBD）に対しても外来、入院での生物学的製剤を含んだ治療に取り組んできしております。ここ最近は生物学的製剤の選択肢も増えており患者様の生活背景に応じた柔軟な治療選択が可能となっています。5-ASA 製剤などで加療するものの症状の落ち着きが悪い患者様などいらっしゃいましたら相談頂けると対応させていただきたいと思います。当科では、内視鏡指導医、消化器病指導医、肝臓・胆道・膵臓指導医など、各分野のスペシャリストが協力し、消化器外科とも連携を取りながら、より良い医療を提供しています。関東労災病院が「近隣の先生方が安心して患者をご紹介いただける病院」であるように今後も近隣の先生方と情報を共有しつつ、不安なく連携できる関係を築いていければと考えております。何かお困りの際には関東労災病院に相談と思っていただけるよう努力していきたいと考えております。今後とも引き続きよろしくお願ひいたします。

## 診療科紹介（呼吸器内科）

胸部異常影、長引くせきから肺がん、  
重症肺炎まで

呼吸器内科 副部長

牛尾 良太  
Ushio Ryota

当院呼吸器内科は、日本呼吸器学会専門医・指導医5名を含む計7名の医師体制で、地域の皆様の呼吸器疾患診療を幅広くサポートしています。肺がん、呼吸器感染症、間質性肺疾患、気管支喘息やCOPDなどの閉塞性肺疾患まで、あらゆる呼吸器疾患に対応可能です。

患者さんの「せき」や「息切れ」といった症状に対しては、呼吸機能検査、呼気一酸化窒素検査、胸部単純写真/CT検査、血液検査など、各種精密検査を駆使して原因を的確に特定し、苦痛の緩和に努めます。

診断においては、気管支鏡検査を積極的に活用しています。気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)を用いた経気管支肺生検、超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)、気管支肺胞洗浄などを鎮静下で行うことで、診断率の向上と患者さんの苦痛軽減を両立させています。特に肺がん診療では、これらの検査結果に基づき、オンコマインDxをはじめとした遺伝子パネル検査やPD-L1の発現測定を行い、患者さんにとて最適な治療法を検討します。



外来診療は、月曜日から金曜日まで毎日行っております。初診患者さんは、予約不要で午前9時から11時までに紹介状をお持ちいただければ診察いたします。また、緊急の患者さんのご紹介が必要な場合は、地域医療連携室まで直接ご連絡いただければ、迅速に対応させていただきます。

長引く咳や胸部異常影といった軽症・疑い症例から、集中治療室での対応が必要な重症肺炎や急性呼吸不全まで、幅広い呼吸器疾患の患者さんをぜひ当科へご相談ください。地域の先生方との密な連携を通じて、患者さんにとて最善の医療を提供できるよう尽力いたします。

# 診療科紹介（泌尿器科）



ダビンチを導入し、より地域のニーズに応えていきます

泌尿器科 部長 野宮 明

Nomiya Akira

現在、泌尿器科には泌尿器科学会専門医・指導医2名と後期研修医2名の常勤医師と3名の非常勤医師で診療にあたっております。

外来は初診・再診ともに原則月曜から金曜まで毎日、手術日は月曜と木曜となっております。当科では、副腎、腎臓、尿管、膀胱、精巣、前立腺などの疾患を対象に、検査、診断、薬物などによる内科的治療や手術などの外科的治療を提供しております。

また、当科は今後3つの新しい取り組みを開始します。当該の症例がございましたらご紹介いただけますと幸いです。

## ① 術支援ロボット（da Vinci Xi）を導入します

前立腺全摘は昨今ではロボット支援下手術が標準術式となっており、当科の手術症例は他院に手術をお願いする状況が続いており、皆様にご不便をおかけしておりました。

この春より手術室の改裝・増築工事を行っており、この冬に当院にいよいよ手術支援ロボット（da Vinci Xi）を導入する運びとなりました。現時点では年明けからの運用開始を目指してスタッフのトレーニングなどの準備を進めているところです。

導入当初はまずはロボット支援下前立腺摘除術から開始し、順次、腎部分切除術、腎摘除術、副腎摘除術、膀胱全摘除術と対応できる手術を増やしていく予定です。

## ② 難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法を開始します

内視鏡機器の充実により、難治性過活動膀胱を対象としてボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法をこの秋から開始予定です。抗コリン剤などの内服治療に抵抗する、もしくは合併症・副作用で内服継続が困難な症例を対象に治療を行う方針です。

## ③ 排尿自立支援チームが立ち上ります

コロナ禍などで導入が遅れておりましたが、いよいよ排尿自立支援チームがこの秋から始動します。

入院中の排尿障害を有する患者さんに能動的に介入することで、個々の患者さんに最適な排尿管理を提案・実現してまいります。

このように手術支援ロボットの導入、難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法の開始、排尿自立支援の立ち上げにより、より地域の皆様のニーズに応えていけるようになります。

引き続き、安心・安全をモットーに地域の皆様に均質な泌尿器科医療の提供を心掛けてまいります。今後ともなにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

(次ページへ続く☞)

## 【関東労災病院地域医療連携室】

患者さまのご紹介・逆紹介、各種検査予約、診療情報に関するお問い合わせにつきましては、地域医療連携室が窓口となって対応いたします。

どうぞお気軽にお問い合わせください。

**TEL:044-435-5031 FAX:044-435-5030**

## クラウドファンディング

# 手術を待つ患者さんのために。 手術室の増設・環境整備にご支援を！

平素より当院の診療ならびに地域医療連携に際し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび当院では、手術室の増設および環境整備を推進するため、初めてクラウドファンディングを立ち上げることとなりました。

新たな手術室の増設により、これまで以上に多くの手術患者さんを受け入れることが可能となれば、地域の医療機関の皆様にも手術の枠がないためお待たせする、ということが少しでも解消されると考えています。

そして、今回増設する手術室は、手術支援ロボットの導入にも対応した設計となっており、患者さんや医療従事者双方の負担軽減を図りながら、より多くの手術を実施できる体制が実現できるものです。泌尿器科、産婦人科、消化器外科などをはじめ、幅広い治療を患者さんに提供できるようになると期待しています。

つきましては、当プロジェクトの趣旨をご理解いただき、情報の周知やご支援を賜れますと幸甚に存じます。詳細は下記QRコードまたはURLに案内しておりますので是非ご覧ください。

今後とも、地域医療の発展のため、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



＼寄付金控除型クラウドファンディング挑戦中／

手術を待つ患者さんのために。

寄附金控除対象

手術室の増設・環境整備にご支援を！

第一目標：1200万円 募集期日：2025年11月7日(金)23時まで

お問い合わせ

Mail : cf@kantoh.johas.go.jp

関東労災病院 レディーフォー



Tel : 044-411-3131

<https://readyfor.jp/projects/kantorosai2025>

